

参加企業数の増加と 固定化の解消が重要

人材育成、生成AI・DX、外国人材——
変化する時代に工業会が果たす役割

千葉県シートメタル工業会 会長

小林 光徳 氏

(株式会社 キヨシゲ 代表取締役社長)



板金加工業界は、少子高齢化や人口減少による人手不足、生成AI活用をはじめとする情報化社会の進展、自動化を中核とする製造DX、脱炭素社会への対応、そして事業承継など複雑かつ多様な課題への対応を迫られている。

千葉県の板金加工業界ではこれまで、県内を統一する組織がなく、同業他社の動向や全国の業界動向、技術、人材育成、環境改善などの情報を得る機会が限られていた。こうした課題に対応するには、各企業が独自の施策や特徴を持って取り組みを進めるだけでなく、業界内で横につながり、情報や知識を共有することが重要となっていた。そこで2005

年4月、県内の板金加工業界の情報交流を活発にし、技術研究や人材育成を推進する組織として、「千葉県シートメタル工業会」が設立された。

千葉県シートメタル工業会（以下、工業会）は今年で設立22年目をむかえ、現在の会員数は53社となった。今年6月の定時総会で新たに3代目会長に就任したのが、これまで副会長を務めてきた(株)キヨシゲの小林光徳社長だ。

そこで、小林新会長に会長就任の抱負や、千葉県の板金加工業界の現状、業界を取り巻く環境がきびしい中での工業会運営について話を聞いた。

■多くの会員に工業会を身近に感じてもらう

——就任してまだ間もないですが、3代目会長としての抱負をお聞かせください。

小林光徳会長（以下、姓のみ） まずは歴代会長の多大なご尽力と功績に感謝を申し上げます。今回会長に就任しましたが、これまで副会長として工業会運営に関わってきたので、今後も着実に会の運営に取り組んでいきたいと考えています。

設立から21年が経ち、会員数は53社となりましたが、なかなか会員数が増えず、入会した場合もなかなか行事に参

加していただけないという課題があります。これは千葉県に限った課題ではありません。参加企業数を増やし、参加企業の固定化を解消することが重要です。会員のニーズを的確に把握して新しいテーマを設定することや研修内容の見直しが必要で、それにより参加者が増えて、結果的に会員数が増えてくれば好ましいと思います。参加人数だけでなく、参加社数を気にかけていきたいです。

会長の任期は原則2期4年、最長でも3期6年として、一人で長期間務めるよりも多くの会員に経験してもらうことで、



①ベトナムで作成された3次元モデルからCAMを作成するプログラム工程。上には工程の進捗状況を確認するためのモニターが設置されている／②人材育成に力を入れており、技能検定合格者は延べ50名を超える

工業会をより身近に感じてもらいたいと思っています。

■「レーザー加工作業」の積極的な参加を応援

——小林会長は以前から「経営者の仕事の8割は人を育てること」とおっしゃるなど、人材育成に力を入れています。会長として技能検定についてはどのようにお考えですか。

小林 当社では特に板金技能検定に力を入れており、延べ50名以上の従業員が合格しています。これは千葉の工業会会員企業全体の合格者の1/4以上を占めます。

板金業界では近年、レーザ加工の重要度が増しているにもかかわらず、4年前までは技能検定の対象になっていたのは「機械板金作業」と「数値制御タレットパンチプレス板金作業」(NCT)のみでした。「機械板金」や「NCT」は取得を希望する方にはほぼほぼ行き渡り、受検者が少なくなってきました。当社でも「機械板金」「NCT」はだいたい行き渡っていて、「機械板金」「NCT」の1級・2級と「工場板金」の特級の5つとも取得し、「もうチャレンジする資格がない」という従業員もいました。

そこで、2023年度から始まった「非接触除去加工(レーザ加工作業)」の技能検定にチャレンジし、合格者も出ています。ただ、まだ受検者は少ないのが現状です。もう少し各社が積極的に参加できるような方法を考えていかなければならないと思っています。まだ始まったばかりということもあって、1級を受検されるケースが多く、実技は良いものの、学科で失敗するケースが目立っています。まずは2級から挑戦することで、受検者の裾野も広がると思います。

■「レーザ機器管理者講習会」について

——2005年に厚生労働省から「レーザ光線による障害防止対策要綱」が発令され、レーザ機器の取り扱いやレーザ光線による障害防止について十分な知識・経験を持つ「レー

ザ機器管理者」を選任し、その管理者のもとで安全対策を講じることが求められています。工業会として「レーザ機器管理者講習会」の開催も検討されていますか。

会社情報

会社名	株式会社 キヨシゲ
代表取締役社長	小林 光徳
所在地	千葉県浦安市鉄鋼通り2-4-3
電話	047-351-7201
設立	1970年(1960年創業)
従業員数	110名(グループ従業員総数149名)
主要事業	鋼板・鋼材販売／鋼板・鋼材加工(プレス加工・板金加工・形鋼加工・機械加工・溶接)／スクラップ回収
URL	https://www.kiyoshige.com/



CORPORATE WEBSITE

主要設備

●ファイバーレーザマシン：REGIUS-3015AJ(9kW)+ASFH-3015G、ENSIS-3015AJ(9kW)+ASFH-3015G+TK-3015L、VENTIS-3015AJ(6kW)+AS-3015G、BREVIS-1212AJ(3kW) ●平板・パイプ兼用ファイバーレーザマシン：ENSIS-3015RI(3kW)+LSTRI-3015E ●パンチングマシン：EM-2510NT ●自動金型交換装置付きベンディングマシン：HG-1003ATC ●ベンディングマシン：HG-8025、HD-1703LNT、ほか5台 ●シャーリングマシン：スケアシャーリング×3ライン、大型シャーリング自動化ライン、油圧シャーリング×2ライン ●コーナーシャー ●形鋼加工機：オートユニットワーカー×2ライン、オートドリルソー×2ライン、ユニットワーカーライン、バンドソーラインなど ●溶接機：ロボット溶接機、半自動溶接機、TIG溶接機、アーク溶接機、スポット溶接機、スタッドボルト溶接機 ●プレスマシン：SDE-2025、TPW-200、TP-200FX、TP-80×2台、TP-60、TP-25×3台、S1-500、HS-300、CBS-150 ●板金エンジニアリングシステム：VPSS 3i ●ブランク加工用CAM：VPSS 3i BLANK ●パイプインデックス装置用CAM：Dr.ABE_Tube ●生産管理システム：APC21



①ファイバーレーザーマシンVENTIS-3015AJe (6kW) +AS-3015G/②ファイバーレーザーマシンENSIS-3015AJ (9kW) +ASFH-3015G+TK-3015L/③平板・パイプ兼用ファイバーレーザーマシンENSIS-3015RI

小林 板金加工では切断、溶接工程においてレーザー加工機が広く普及しており、レーザー光の人体に与える危害の重篤性——特に網膜や視神経に回復不能な障害をおよぼす危険性から作業者を守り、安全なレーザー加工を普及させることは喫緊の課題であると考えています。

当社が立地する「浦安鉄鋼団地協同組合」では、組合でクレーン操作や玉掛講習などの「安全講習会」をたびたび開催しています。団地内ですから開催時間に合わせて仕事を中断し、すぐに参加することができます。しかし、シートメタル工業会で開催する場合は、会員企業が県内各地に分散しているため、講習会参加も1日がかかりとなります。工業会単独での開催は難しい面があるため、できればアマダスクールなどで開催してもらいたい。

■「生成AI」関連の企画には難しさもある

——ほかの工業会では、業務改善の一環として生成AIの活用を検討するため、「生成AIに関連した勉強会」を企画したいという声もあるそうですが、会長はどうお考えですか。

小林 たしかに、これからの経営には生成AIやAIエージェントの活用は欠かせないでしょう。しかし、一言でAIと言っても非常に多岐にわたっており、どこからどう導入し、何を学ぶかによって参加者の反応も大きく異なります。工業会として、どこまで踏み込んで取り組めるかが課題です。

また、AIは進歩が非常に速く、1年でどんどんバージョンアップしていくため、情報や知識が陳腐化するのも早い。これから製造現場では、ロボットとともにフィジカルAIの活用も進むといわれています。そのため、生成AIもフィジカルAIについても、できればアマダで推奨するAIをライブラリー化し、その活用方法についても講習会などを企画していただくと、より効果的ではないかと考えています。

■もはや会社経営に外国人材は欠かせない

——板金業界でも人手不足への対応から技能実習生などの外国人労働者が増えています。外国人労働者の活用についての考えをお聞かせください。

小林 当社でも、グループ全体で40名超のベトナムからの技能実習生、特定技能、高度外国人材が働いています。労働人口が減少する日本ではこれは避けて通れない課題であり、会社運営には欠かせない人材となっています。それだけに工業会としても外国人労働者の受け入れや管理について、重要な課題のひとつとして取り上げていきたいと思っています。

また、海外研修も事業に加えたい。以前は実施していましたがコロナ禍で中断していました。今年ようやく復活できたので、今後も継続していきたいと考えています。

■全国組織化よりもWebサイトの改善が急務

——板金業界の知名度アップのためにシートメタル工業会を全国組織にすべき、という意見があるようですが、この件についてお考えはありますか。

小林 当社は事業の一環としてプレス加工に取り組んでいるので、一般社団法人東京都金属プレス工業会に加入しています。この上部組織に一般社団法人日本金属プレス工業協会があり、ここが全国組織として国に対してさまざまな要望を出しているほか、国の「素形材産業ビジョン」作成にも関わっています。

ご指摘のように、「板金加工品」は総務省・経済産業省が行う「産業構造実態調査」にも、経済産業省が実施する「金属加工統計調査」にもなく、「金属プレス加工品」の分類に含まれています。ただ、「板金加工品」だけを新たな分類として取り上げるのはなかなか難しいと思います。また、統計上の分類に含まれていないことが、国をはじめ社会全体での



①自動金型交換装置付きベンディングマシンHG-1003ATC／②現場ではタブレット端末で製品モデルの確認ができる／③データセンター向け装置のフレーム架台

認知度が低いことの直接的な理由にはならないと思います。

全国組織はないよりあった方がよいとは思いますが、今すぐ必要かという、そうではないと思います。事務局をお願いしているアマダの考えもあるでしょうから、急いで進める必要はないのではないのでしょうか。

それよりも、工業会のWebサイトをリニューアルし、AIを活用して見せ方を変えるなど、板金業界のイメージを変えていくことの方が重要だと考えています。年内には全国のシートメタル工業会のWebサイトを一齐にリニューアルすると聞いていますので、期待しています。

■2030年までに年商100億円を目指す

——今年に入り、AI、データセンター、半導体などの産業が牽引して景気回復が進んでいます。御社の業績と、先行きの景気見通しについての考えをお聞かせください。

小林 当社は浦安を中心に国内6カ所、ベトナム1カ所に拠点を持ち、「鋼材販売事業」「鋼材加工事業」「スクラップ回収事業」の3事業を展開しています。「一途に鉄（てつ）、一途にお客様」をスローガンに、“鋼材流通加工サービス業”として、“鉄”の入口から出口までのワンストップソリューションを提供できることが最大の特徴です。

これまでの売上構成は「鋼材販売事業」が50%、「鋼材加工事業」が35%、「スクラップ回収事業」が15%でした。しかし、2023年以降は鋼材価格が下落した一方、建設機械、電機、産業機械など、中・厚板の需要業界からの加工依頼が増加しました。「鋼材販売事業」に変わって「鋼材加工事業」が拡大傾向で、これら主力2事業の売上が40～45%と拮抗するまでになりました。

加工事業では2021年12月にM&Aをした製缶板金企業、(株)根本製作所（群馬県太田市）の効果が大きい。浦安で加

工した板金加工品、形鋼加工品などを根本製作所で製缶溶接、仕上げ、組立、塗装まで一貫して行っています。最近ではデータセンター向け設備や半導体製造装置に使われる形鋼のフレーム架台の仕事が忙しくなっています。景気はしばらく良いと考えており、2030年までには当社の年商も100億円を達成させたい。

■パイプ・形鋼レーザ加工専用の自動化ライン、厚板対応の複合機がほしい

——景気は好調ようですが、設備の過不足感がありますか。

小林 架台の仕事が忙しいこともあり、加工センターに導入した平板・パイプ兼用ファイバーレーザマシンENSIS-3015RIがキャパオーバーになっています。できれば、パイプ・形鋼加工専用のレーザ加工機の自動化ラインがほしい。

また、平板加工用のファイバーレーザ加工機は9kWが2台、6kWと3kWがそれぞれ1台ずつあり、1台を除き棚付きで24時間稼働しています。板厚は3.2～22mmで、加工後にタップ、座グリなどの2次加工を行うケースも多いです。そのため、レーザ加工後に横持ちして機械加工を行う必要があり、この工程がムダになっています。できれば、レーザ加工後にタップ、座グリが同時同所加工できる複合機がほしいところです。

当社では従業員に「面倒くさい作業」を挙げてもらい、それをDX推進委員会のメンバーが自動化・合理化によるムダ取りを検討し、実用化を進めています。それらを最終的に統合してシステム化していきたい。ただ、社内のスタッフだけで解決するのは難しい部分もあるので、社外のSierの力も借りたいと考えています。工程を横断して全体最適を支援するSierビジネスを、ぜひアマダに展開してもらいたいと期待しています。